

埋文 あらかると

博物館実習は、学芸員資格取得を目指す学生に対して行う実地研修で、博物館に関する人材の育成や博物館活動の普及を目指して行う事業のひとつです。

毎年、当センターでは地元大学のを中心に、学芸員資格の講座受講生を博物館実習生として受け入れています。今年度は3名の実習生を受入れ、7月24日(火)から8月3日(金)までの8日間実施しました。



博物館実習

当センターでは、体験教室の運営補助と課題作成がカリキュラムのメインとなっています。

体験教室は夏休みのふるさと考古学教室と連携し、まが玉づくりや刀鍛冶体験の補助を担当していただきました。体験内容の理解や手順の説明、体験する子供たちへの注意やアドバイスなど、実際の活動を通して多岐にわたる学芸員の仕事を体感してもらいました。

課題作成は、特別展「旧石器時代とはどのような時代だったのか!」で展示する旧石器人のマネキン作成を行いました。国内で出土例のない旧石器時代の着衣については研究成果をもとに復元案スケッチを描くことから始め、革紐や合皮などを素材として3体の旧石器人を作り上げました。あわせて当時の道具も発泡スチロールや自然の枝木等で



復元し、よりリアルな展示を目指しました。これら努力の成果は、展示室で皆さんのお越しをお待ちしています。

また、来年度の実習実施要項については1月にホームページ上で公開する予定です。

(町田尚美)

14歳の挑戦

富山県では、平成11年度から、行動領域が広がり活動的な中学2年生が、1週間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身



につけることができるように、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を行っています。今年度は富山市内の中学校から9名の生徒を受入れました。

館内・館外清掃、体験道具のメンテナンスや、出土品の解説学習などを行いました。

自分たちがまが玉づくりの体験に使用した道具をメンテナンスすることで、体験で使用する人の立場にたってメンテナンスすることの大切さに気付いていました。

職場体験最終日には、他の施設に職場体験に来ている生徒を対象に展示解説を行いました。職員の展示解説をも



とにして、自分なりの言葉を付け加えながら展示解説を行っていました。ここでも、解説を聞く人の側にたって考えるという姿が見られました。

後日届いた礼状には、職場体験を通して、自分の役割に責任をもって働くことの大変さや、人のためになることの喜びを学ぶことができたと書いてあり、短い期間であっても子供たちにとって意味のあるものになったことをうれしく思いました。

(米田 大介)